

# かけはし2



NO. 5

2021.1月

■事務所 〒875-0041 臼杵市大字臼杵72番地の47

TEL・FAX 0972-83-5911 E-mail hazime.ast8@gmail.com

## 2021年 今年は輝ける年にしよう

### コロナに打ち勝ち、みんなが安心できる民主的な社会を実現しよう

2021年寒中お見舞い申し上げます。

昨年はいへんご心配とご迷惑をおかけしました。私にとっても、昨年は大病を患い苦しい1年でした。そして、世界中に感染拡大した「新型コロナウイルス」。これまでの生活が一変。ウイルスだけでなく、経済的にも追いつめられる人たちがいます。その中で、全く有効な対策をとれない無為無策の政府の姿が浮き彫りになりました。

この議会だよりがみなさんの手元に届くころには、この原稿を書いている今(20年12月)より、少しでも収束していることを願います。



今回の新型コロナウイルスは、これまでになく強力な感染力を持っています。飲食・ホテル・観光業をはじめ、バスやタクシー業界など多く

2020年は、新型コロナウイルスの感染拡大に加え、7月の豪雨災害など大規模自然災害も発生し、大分県も大きな被害を受けました。コロナ禍の中で他県からのボランティアも受け入れることが困難な中、地元ボランティアなどの力で少しずつ復旧・復興が進んでいます。私たち県議会・県民クラブも県や国に対し、現地を調査し物資をはじめ、必要な支援を要請してきました。現状復旧ではまた同じような災害が起きた場合、同じような被害が発生するたため、改善復旧を強くお願いしてきました。思った以上に被害がひどく時間はかかりますが、被災者の方が再び以前のような生活に戻れるためにも、私たちも最後まで支援と協力を続けていきます。

## 2020年第4回県議会定例会報告

第4回定例会は、昨年11月25日から12月11日までの17日間の会期で開会しました。

今回は大分空港(国東市)と大分市を結ぶホーパークラフト導入費を含む「大分空港海上アクセス整備事業」を計上した一般会計補正予算案(補正額2億8333万4千円、累計7757億763万4千円)など、17議案を上程しました。

冒頭、10月に逝去された濱田洋県議(自民党)に黙祷をささげた後、馬場林議員(県民クラブ)が追悼演説を行いました。

の職種で生活が苦しくなり困窮しています。それに対する政府の無為無策な状態に多くの国民は憤っています。経済活動を止めないことは大切ですが、まずはウイルスの感染拡大を止めてからではないでしょうか。それとも、政府には私たちの現状が見えないのでしょうか。

一つ確実なのは、今年の秋までには衆議院の解散・総選挙が行われるということです。今の与党に、このまま続けて政権を任せていてよいものでしょうか。コロナに打ち勝ち、安心・安全で民主的な日本社会の実現のためにも、今回の選挙では多くの市民・県民のみなさんが大切な一票を投じましょう。

今年の干支は「丑」ですね。そして私は「年男」です。つまりは「還暦」。大きな病気から生還し、新しく生まれ変わった気持ちで、がんばります!!よろしく願います。



# 久しぶりに一般質問に立ちました

1年5カ月ぶりに一般質問に立たせてもらいました。今回、県の執行部に質問した内容は、大きく5項目。やや盛りだくさんで、時間的に詰めることができなかったのが、心残りです。その分は、また次回に…。



## 一般質問で訴えた内容(要旨)

大きく左記の五項目について、県の見解を質しました。

- 一 少子化対策について
- 二 日出生台
- 三 実弾射撃訓練について
- 四 医療現場の課題について
- 五 横断歩道での運転マナーの向上について
- 五 学校現場の課題について

少子化対策について、未婚者や晩婚者への支援策と多子世帯への支援策について質しました。

知事は、現在県として取り組んでいる出会いサポートや不妊治療への費用の上乗せ、保育料の助成制度等の支援策を紹介し、引き続き結婚、妊娠・出産から子育てまでの切れ目ない支援に取り組むと答弁しました。

日出生台実弾射撃訓練について、日米合同委員会の話し合いと今後の対応について質しました。

知事は、「日米合同委員会での協議が整い次第、説明する」と返答が

あったと明かした上で、将来にわたる縮小・廃止が県の基本スタンスと答弁。引き続き確認等の順守を強く求めていきたいと述べました。

医療については、特に白血病の現状と骨髄ドナー登録が少ないことを取り上げ、今後の取り組みについて質問しました。

福祉保健部長は、啓発用リーフレットの配布やSNS等の活用、企業への支援制度も創設し、関係者の連携強化を図っているということでした。

また、医療従事者の確保や労働環境の整備については、健康で安心して働ける環境整備は重要と認識し、ICTを活用した業務効率化の支援や特定医療行為を行えるナース・プラクティショナーの養成を推進していることやAI問診システム導入等の先進事例の紹介に取り組んでいるということでした。

学校現場の課題の一つとして、コロナ禍における今後の修学旅行についての質問しました。日田市中津江の鯛生金山が中学校の修学旅行先として誘致を始めたことを紹介し

支援を求めました。

観光局長は、可能な限り県内実施等も検討するよう県立・私立・市町村教委に依頼したところ、小学校220校、中学校39校が県内で実施し好評だったと報告。引き続き情報を提供し、修学旅行の県内実施を働きかけていくと答弁しました。

信号機のない横断歩道での車の一時停止について、大分県は九州・沖縄で最も低い現状を指摘し、横断歩道は交通弱者の歩行者が優先とのルールを徹底することの必要性について見解を求めました。

警察本部長は、街頭における交通指導取り締まりや歩行者への正しい横断指導の強化、「マナーアップ」の広報啓発や交通安全教育、横断歩道の高輝度化などに努めると述べました。



で、少子化対策と絡め、見直しの時期ではないかと教育長に迫りました。

教育長は、複数勤務地を経験させることは、キャリア形成にお

いて大事な取り組みとメリットを強調。その上で、結婚等個人的事情については可能な限り配慮していること答弁。今後とも、個別事情に配慮しながら、広域人事をあくまで進めたいと述べました。



しかし、多くの教職員が「それでも、この人事ルールは早くなくしてほしい」と声をあげています。ルールは人が作ったもので、お金も人もかからず、やる気があればすぐ見直せるもの。そうしなければ、少子化も今後の教職員の確保も解決しないことを最後に強く訴えました。

その他、政府が進めようとしている「不妊治療」の保険適用については、職場をはじめとした周りの理解と支援が必要で、県として十分な支援をお願いしたいことや、「核兵器禁止条約」が1月に発効する予定だが、唯一の被爆国である日本がいまだ批准していないことを取り上げ、政府に強気に働きかけてほしいと要望しました。



# 今回の提出議案の概要 (知事の提案理由説明から)

## 1 新型コロナウイルス感染症対策

本県においても、突発的にクラスターが発生するなど、油断できない状況になっている。新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行に対しては、両方を検査し対応できる医療機関を426か所まで確保している。発熱等で受診する際は、まずは電話でかかりつけ医に相談を。診療時間外や、かかりつけ医がない場合は、新たに設置した24時間対応の受診相談センターが、近隣の医療機関を紹介する。

## 2 社会経済の再活性化

これまで、雇用維持や事業継続を図るため、雇用調整助成金や持続化給付金等に加え、県独自でも、中小企業・小規模事業者応援金をはじめ、補助金や応援割等による観光振興など、再活性化策を進めた。その結果、徐々に改善の動きがみられている。県制度資金による金融支援に引き続き力を入れる。

他方、県外からの移住者は過去最高のペースで好調に推移している。また、大分空港が4月に宇宙港に初めて選定され、宇宙ビジネスを本県の新しい活力分野として切り拓くとともに、先端技術に挑戦する人材の育成や、時代を担う子どもたちの宇宙技術への興味・関心の向上に取り組む。



大分空港の海上アクセスの改善について、上下分離方式によるホーバークラフトの導入が最も有効との結論に至った。今定例会において関連予算を提案している。

## 3 豪雨災害への対応等

被災者の住宅再建支援をはじめ、なりわい再建補助金による中小企業等の事業回復もあり、復旧・復興が着実に進んでいる。今後は、予想を上回る速度で顕在化する気候変動や「南海トラフ地震」も念頭に、抜本的な治山・治水対策の強化、港湾海岸の整備、社会インフラの老朽化対策の加速など、事前防災による強靱化をさらに推進する必要がある。

## 4 補正予算案の概要

今回の補正額は2億8333万4千円の増額で、補正後の累



計は、7757億763万4千円となる。大分空港の海上アクセス整備に関するもののほか、公共事業の施工時期の平準化と防災効果の早期発現に向け、50億円の債務負担行為等を設定するもの。

## 5 その他

### (1) 職員の給与に関する条例等の一部改正について

一般職職員の期末手当の支給割合の改定と知事ほか特別職の常勤職員等も同様の措置を講じるもの。

### (2) 大分県自転車の安全で適正な利用の推進に関する条例の制定

自転車利用者等の責務を明らかにするとともに、通学におけるヘルメット着用等の安全上の措置や、自転車損害賠償責任保険等への加入等について定める。

## 「すべての子どもに豊かな学びを保障するために少人数学級の実現等を求める意見書」を全会一致で可決

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、学校現場が多忙化しています。「3密」を避け安全・安心な教育環境を保障するためには、少人数学級の実現が必要です。県民クラブは、①密集等を避けるため少人数学級の実現を図る、②人的支援及びICT機器等の配備を促進する、③教育環境の充実に必要な財源の計画的・安定的確保を行う、の3つを国会及び政府に求める意見書を提出。全会一致で可決されました。今回の意見書採択を少人数学級実現に向けた大きな一歩にしましょう。(PS. 昨年12月17日、小学校においては35人学級になることが決まりました。21年度から5年間かけて25年度までに全学年が35人以下になります。残念ながら、中学校は40人据え置きです。)



## はじめの活動日誌

### 11月

- 1日 おおいた教育の日推進大会(津久見市民会館)
- 2日 第2回県政連議員学習会(教育会館)
- 3日 文化の日 臼杵市表彰式(市民会館)
- 6日 議員出前講座打ち合わせ(北中学校)
- 17日 自治体議員団大分県会議  
定期総会・研修会(自治労会館)
- 18日 第4回定例会議案説明
- 19日 県政共闘会議各部局交渉(県議会)~20日
- 20日 永年勤続・産業・技術・経営各功労者表彰式  
(臼杵中央公民館)
- 25日 第4回定例会開会(県議会)
- 27日 内外情勢調査会大分支部懇談会  
(オアシスタワー)
- 28日 第16回臼杵市社会福祉大会(市民会館)  
臼杵の地酒による乾杯条例施行  
5周年記念式典(サーラ・デ・うすき)
- 30日 本会議(先議案の採決)(県議会)

### 12月

- 2日 一般質問(県議会)~4日
- 7日 常任委員会(土木建築・  
福祉保健生活環境委員会)
- 11日 第4回定例会閉会(県議会)  
土木建築委員会参考人招致(県議会)
- 13日 E10東九州自動車道4車線化等事業  
着工式(臼杵中央公民館)
- 16日 議員出前講座in北中学校
- 17日 土木建築委員会県内所管事務調査~18日

## 臼杵の地酒による乾杯条例 施行5周年記念式典

臼杵市のおいしい地酒をもっと飲もうと5年前に制定された「地酒による乾杯条例」。5周年を記念して式典が行われました。野津会場と臼杵会場、さらには県外の臼杵の方々リモート形式で結び、臼杵の地酒への思いを語り合いました。



## E10東九州自動車道4車線化等事業着工式

宮河内から津久見間の自動車道の4車線化が決まり、それをお祝いして着工式が行われました。国会議員をはじめ沿線の自治体の首長他が集まり、工事の無事を祈願しました。対面式片側1車線では、本来の自動車道の機能が果たせませんし、災害時には通行止め等で通れなくなりま。完成は今のところ未定です。



## 議員出前講座in北中学校

県議会の仕組みや議員の活動について知ってもらい、議会を身近な存在として感じるとともに政治に興味をもってもらうため、地元選出の議員が学校にお邪魔して講義を行っています。今回が臼杵市で初めての開講です。志村議員とともに北中学校に出向き、子どもたちと意見交換を行いました。うまく伝えられなかったけど、少しは政治に興味関心を持ってもらえたかな？



## たけやま

◇様々な行事が、新型コロナウイルスのために、中止あるいは延期を余儀なくされています。また、各団体の集会や大会も、ごく限られた人数で開催となっています。来賓として呼ばれることがなくなり、支援者のみなさんと顔を合わせる機会が少なくなっています。なるべく現地へ足を運び、顔を合わせながら、お話をさせていただきたいです。

◇東日本自動車道の4車線化が決定しました。高速道の機能強化の面でも防災時の面においても、4車線化は必要でした。臼杵港の新しいフェリーターミナルも計画されています。それに伴って、道路の拡幅工事も予定されています。昔ながらの臼杵の景観を残しながら、街の風景も新しくなっていくことでしょう。

